6　研究内容

主体的・対話的な授業づくり

(1)「川小版　学びのスタイル」の実践

「めあて」と「ふり返り」を相対させた授業展開や授業終了時の期待する子ども姿をもとに、「何を学習するのか」「どのように学習するのか」「学習のゴールは何か」を明確にして立てる「逆算設計」の学習過程の立案により、言語活動の充実、指導と評価の一体化を図る。

(2)授業研究の観点

主体的・対話的な授業づくりに向けて、下記の３つの観点を大切にし、指導計画や単元構想を工夫するとともに、５つの要素（ア～オ）を授業展開の中に位置付ける。

①　単元（本時）の導入と課題意識の持たせ方

・子どもたちの既習経験、学習定着度、興味関心等に加え、教材の特徴を生かし、子どもたちにとって、魅力的な学習活動や指導展開の工夫を行う。

・子どもが、見通しをもち、主体的に学習に取り組むために、子どもたちに、学習の目的・スケジュール（計画）・学習方法等をつかませる。

・つけたい力を意識し、「めあて」と「ふり返り」を相対させた授業展開を工夫する。

→ア「興味関心」「疑問」「困り感」等を持つ場が設定しているか。

②　よりよい対話の在り方

・発達段階に応じた「学習の基盤となる資質・能力」を意識し、教材の特徴を生かした言語活動（対話）を単元の中に位置づける。ペアやグループ、全体など、目的と必要性を意識した対話活動を行う。

・自分の考えを友だちと共有したり、比較・検討したり、協議したりする対話場面を意識的に設定する。

・子どもたちの意見交流や共有には、ロイロノートなどＩＣＴを効果的に活用する。

→イ「どのように考えたか」を話す・書く場を設定しているか。

→ウ　理由と根拠を入れて話す・書く場を設定しているか。

→エ「共通点」と「相違点」を考えながら聞く・読む場を設定しているか。

③　学習評価

・学習のねらいに沿って視点を示しつつ、子ども自身の評価として「ふり返り」を書かせる。また、「ふり返り」によって、教師自身が子どもの学びの変容をとらえ、次の学習や指導に生かしていく。

→オ「だから」「つまり」「これらことから」などの言葉を使ってまとめる（話す・書く）場を設定しているか。

学びの土台づくり

(1)基礎的・基本的な知識・技能の定着

・習熟度別学習（4・5・６年の算数）

算数の習熟度別学習の対象を広げ（4～６年）効果的な実践を重ねる。

・自主学習ノート

全校で自主学習ノートに取り組み、課題を自ら設定して探究していく学びの土台づくりとする。

・「家庭学習の手引き」

基礎学力の定着のために、各家庭に配布し、家庭と連携して家庭学習の習慣化を図る。

・読書活動（朝の読書）の充実

朝の読書や読書チャレンジ、ファミリー読書リレー等により、読書活動を推進し、落ち着いて学習に臨む雰囲気づくりや情報を読む力・読み取る力の育成につなげる。

・「ぐんぐんタイム」の実施と「ｅライブラリ」の活用

月に１回の「ぐんぐんタイム」を設け、子どもたちの実態に応じた基礎学力の補充を行うとともに、「ｅライブラリ」を活用し、個別最適化した学習に取り組む。

(2)なかまづくり・子ども理解と子ども支援

魅力ある学校づくり、Q-U の実施と結果共有に基づくアセスメントと対応策、なかまづくり、学級づくり、ＳＳＴ、人権教育、いじめを生まない学校づくり、道徳の授業づくりなどの研修を行い、なかまづくりや子ども理解・支援につなげる。

令和３年度

亀山市立川崎小学校　研究デザイン

教育大綱　基本方針教育－１

未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員　研究基本方針

一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら、なかまとともに主体的に学ぶために

(1) すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。

(2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。

(3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな身体をはぐくみ、自己肯定感、自己有用感を高める教育活動をすすめる。

(4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。

1　川崎小学校コミュニティ・スクールとしての基本理念

地域の中で、みんなで生き生きと学ぶ川崎っ子の育成

2　学校教育目標

「ふれあいを通して人と人がつながり　学びにあふれる学校」

・保護者・地域と情報共有しながら、協働し、大人も子どももつながる

・豊かな学び・確かな学びが実感できる、笑顔あふれる教育活動を創造する

めざす川崎っ子像

①　「川崎小学校十か条」を実行する子

②　自ら進んで学習し、思いを伝える子

③　違いを認め、受け入れる子

④　心身共に健康で、命を大切にする子

⑤　自分と仲間、家族と地域を大切にする子

☆やさしく、かしこく、たくましく☆

めざす教職員像

①児童理解に努め、自らの専門性と指導力の向上に励む教職員

②創造的な発想と多くの対話で、教育課題に積極的に取り組む教職員

③開かれた学校づくりのため、保護者や地域との連携を深める教職員

☆明るく、仲良く、元気よく☆

3　研究主題及び研究領域

「一人ひとりの子に『深い学び』を実現する授業改善」
～主体的・対話的な授業づくりを通して～
研究領域：国語科・自立活動

4　研究主題設定の理由

令和元年度の全国学力・学習状況調査において、国語、算数ともに改善傾向が見られたが、国語においては、「読み取ったことを根拠に自分の考えを書くこと」、算数においては、「既習内容を活用すること」に課題が見られるなど、記述式の問題の多くで全国平均を下回っていた。

このような傾向から、令和2年度は、子どもたちに「書く力」「読む力・読み取る力」を育成することが必要であると考えた。「書く力」・「読む力・読み取る力」はあらゆる学習過程において育まれるものだが、主に国語科と他教科等の学習活動とのつながりを意識して指導されるものなので、領域を国語科、自立活動とし、研究主題を「一人ひとりの子に『深い学び』を実現する授業づくり」、サブテーマを～確かな「ふり返り」を通して～とした。そして、川小版「学びのスタイル」という授業の基本形のもと、「めあて」と正対した「ふりかえり」を意識した逆算設計で授業展開を考え、「ふりかえり」から、子どもの学びの変容を検証することとした。

その結果、「めあて」と「ふりかえり」に対する教員の意識は向上した。さらに、子どもたちに「ふりかえりの視点」を与えて、書かせたことにより、子どもたちは書くことに慣れ、「ふりかえり」の量や質も少しずつ向上してきた。

令和2年度のみえスタディ・チェックでは、4、5年生の国語、算数ともに県平均正答率を上回ったが、その一方で国語では、「叙述をもとに登場人物の気持ちやその変化を捉えること」「様々な資料や初見の文章から必要な情報を読み取ること」「自分の考えを書くこと」に課題が見られた。また、算数においても、「考え方や判断した理由を記述すること」に課題が見られた。

また、令和2年度は、新型コロナウイルスの影響もあり、校内における授業研究の機会が減少したため、十分校内研修を深めることができなかった。したがって、令和3年度も引き続き、「書く力」・「読む力・読み取る力」の育成に取り組んでいく。そして、これらの力の育成には、基礎的・技術的な学習や反復的な学習も必要不可欠ではあるが、「知りたい」「やってみたい」「考えてみたい」という子どもたちにとって主体的な学習や「話したい」「伝えたい」「聞きたい」という思いをもって臨む対話的な学習の中でこそ、真の力として育まれるものであると考える。そこで、本年度は、研究主題を「一人ひとりの子に『深い学び』を実現する授業改善」、サブテーマを～主体的・対話的な授業づくりを通して～とし、校内研修を進めていく。

※「深い学び」とは
子どもたちが主体的・対話的な学習活動を通して、自分の思いや考えを深めたり、変容させたりしていくこと。

5　研究構想図

「書く力」「読む力・読み取る力」の育成

研究主題
「一人ひとりの子に
『深い学び』を実現する授業改善」
～主体的・対話的な授業づくりを通して～

中部中学校区研修主題
主体的な学びと対話的な活動のある授業づくり
～学びをつなぎ、高め合う子の育成～

主体的・対話的な授業づくり　～３つの観点と５つの要素～

① 単元（本時）の導入と課題意識の持たせ方

・子どもたちにとって、魅力的な学習活動や指導展開の工夫
・学習の目的・スケジュール（計画）・学習方法等、学習の見通しの提示
・つけたい力を意識し、「めあて」と「ふり返り」を相対させた授業展開の工夫。

→ア「興味関心」「疑問」「困り感」等を持つ場を設定しているか。

② よりよい対話の在り方

・教材の特徴を生かした言語活動（対話）の位置づけとペアやグループ、全体など、目的と必要性を意識した対話活動の実施
・自分の考えを友だちと共有したり、比較・検討したり、協議したりする対話場面の設定
・子どもたちの意見交流や共有には、ロイロノートなどＩＣＴを効果的に活用

→イ　「どのように考えたか」を話す・書く場を設定しているか。
→ウ　理由と根拠を入れて話す・書く場を設定しているか。
→エ「共通点」と「相違点」を考えながら聞く・読む場を設定しているか。

③ 学習評価

・学習のねらいに沿った視点の提示
・子どもの学びの変容の把握と次の学習や指導への活用

→オ　「だから」「つまり」「これらことから」などの言葉を使ってまとめる（話す・書く）場を設定しているか。

川小版　学びのスタイル

・つけたい力を意識し、「めあて」と「ふり返り」を相対させた授業展開
・授業終了時の期待する子ども姿をもとに、「何を学習するのか」「どのように学習するのか」「学習のゴールは何か」を明確にして立てる「逆算設計」の学習過程の立案

学びの土台づくり

基礎的・基本的な知識・技能の定着

・「ぐんぐんタイム」の実施　・「ｅライブラリ」の活用　・自主学習ノート　・習熟度別学習
・家庭学習の習慣化　・読書活動の充実

なかまづくり　子ども理解と子ども支援

・互いを認め合えるあたたかな学級集団づくり　・子ども理解と支援の充実　・学習規律の徹底